

# 「新年のごあいさつ」

仙北市長 門脇光浩



新春を迎えました。辛かったこと、嬉しかったこと、いろいろあった旧年はもう過去のできごと。大切な心持ちは「今年はどうな年になるのか」ではなく、「どんな年にするのか」だと思います。

国政は不透明です。国民の願いが「栄光よもう一度」的感覚だったら、政策需要と事業供給の乖離は、ますます拡大するしかありません。それでも日本は経済大国です。ただし品格を問われたら答えに窮します。

これまでの常識・価値観から、どれだけ早いスピードで脱却できるか、国にとつても地域にとつても、再生のキーポイントは意識転換でしょう。経済も人口も縮小の時代です。だからこそ必要な政策があります。

さて市長職をお預かり、早いもので一年と二カ月が過ぎました。その間、記録的な猛暑、ゲリラ豪雨、米価の下落…。毎日、本当にたくさんの方の意見をいただいています。全ての教訓は必ず政策に活かします。

今年も、市民分権の仕組みづくりを進めます。昨年末、角館雲沢地域で運営体（昭和の大合併以前

の町村単位の市民団体）が立ち上がりました。市内九地域のうち、六番目の設立です。一つの運営体に多くの団体・集落が参加し、地域再生や防災など、自らの発案で事業を決定する仕組みです。その財源として市が上限五〇〇万円まで交付します。

市議会でも議論をさせていただいた市民サポートセンターは、地域運営体と一つになり、見守り・防災・ご用聞き活動など、職員が地域に飛び出すサービス前線基地がイメージです。これらも含め、危機的現状にある地域の存続に向け、取り組みを強化します。

市が独自に行った高齢者生活実態調査では、多くのご意見をいただきました。この調査から生まれた各種政策、それに所得を確保するための農林業での独自支援策、観光「田沢湖・角館」統一ブランド、起業家育成、電気自動車実証実験など…。

職員と共に、皆様の声にお応えできる市役所づくりに邁進します。お一人お一人の思いが叶う、そんな一年となりますように。